「福知山シネマ」イベントレポート！

福知山シネマでの映画公開を記念して2月4日に行われた、こうの史代先生と片渕須直監督のトークイベントを前号に続いて詳細にお届け！『この世界の片隅に』について作者の二人が語り尽くすイベントレポート、最終回！

こうの史代×片渕須直監督（聞き手：映画プロデューサー志摩敏樹氏）トークイベント詳細レポート！［vol.3］

志摩　お二人の次回作にはみなさん興味あると思うのですが、どういったことをお考えでしょうか。

こうの　私はしばらく東日本大震災を取材していたというのもありまして、そろそろそれを漫画にしたいですね。あとは、福知山を舞台にした日常物もできたら良いなと思っています。

志摩　それはどちらも非常に読んでみたいですね。監督はいかがですか？

片渕　僕は今まで30年以上アニメーションをやってきたのですが、これまではやりたい企画を出してもあまり相手にされずに、はねられて来たんですね。自分がこれをやりたいですと言ってフィルムとして形にできたのは、『この世界の片隅に』が初めてなんですよ。それが、おかげさまでここまで評価を頂いて、とても有難いことなんですけど、この状況を踏まえて次に自分が何をやるべきか。これまで出しては引っ込めて来た企画が山ほどあるので、その引き出しを一つずつ開けながら、自分の気持ちを確かめているところですね。

こうの　その中には『マイマイ新子と千年の魔法』の続編というのもあるんですよね。

片渕　ええ、まぁ（笑）。それもちょっと考えてはいますけど。

こうの　声優さんの年齢もあると思うので、やるなら早い方が良いですよね。

片渕　そうなんですよ、中にはお芝居の仕事を辞めちゃった子もいるので、あのままの続きは作りにくいのかなとは思います。

こうの　では、次は諾子（なぎこ）ちゃんが主人公とか……？

片渕　そういうことも考えたりしてるんですけど、他のやりたいことも含めて、自分の気持ちがどこに向かって行くか……。何せ、『この世界の片隅に』を作っている時から今にかけて、ほとんど休みがないので（笑）。落ち着く時間がないんですよ。さっき打ち合わせの時に、『君の名は。』の話はどうかと出ましたけど、まだ観れていないのでお話もできないような、申し訳ない状況で。先日、樋口真嗣さんと金沢で講演をやったんですけど、『シン・ゴジラ』も特別にDVDを貸してもらって、金沢へ行く新幹線の中で観ましたよ。金沢への道中とちょうど同じ長さでした。その前に庵野君と会ってたけど、ごめんまだ観てないんだって言ったきりでしたね。そんな状況なもので、自分の作品のためのインプットもできていないので、まずは再起動をするところから、と思っています。

志摩　ファンのみなさんは、こうのさんと片渕監督がもう一回組むことへの期待というのもあるのかと思いますが。

こうの　どうでしょうね（笑）。

片渕　どうでしょうね（笑）。

志摩　これが福知山を舞台にした作品なら言うことないですね。

こうの　あ、なるほど（笑）。では、志摩さんにプロデューサーになっていただいて。

志摩　いやいやいや。それはそうと、先ほど『君の名は。』と『シン・ゴジラ』というタイトルが出ましたけど、『この世界の片隅に』を含め、昨年を代表するこの3タイトルは結果的に全て震災、戦争、大災害などカタストロフを背景としているという共通点がありますね。

片渕　東日本大震災

こうの史代
1968年、広島市生まれ。主な著作は『夕凪の街 桜の国』『長い道』『さんさん録』『ぼおるぺん古事記』『日の鳥』『荒神絵巻』など。

片渕須直
1960年、大阪府生まれ。TVシリーズ『名犬ラッシー』で監督デビュー。代表作に『アリーテ姫』『マイマイ新子と千年の魔法』など。

志摩敏樹
1962年、京都府舞鶴市生まれ。京都を拠点に映画の製作・配給を行う。映画プロデューサーであり、福知山シネマのオーナーでもある。

『この世界の片隅に』上映中＆映画公開記念パネル展開催中！

［福知山シネマ］
京都府福知山市東中ノ町28-1
TEL：0773-23-1249

があったことで、そういう物語をよりリアルに観れるようになっているのではと思います。とは言え、こうのさんが「この世界の片隅に」を描かれたのは震災より全然前なんですけどね。自分たちがこれを映画にしようと思ったのも震災より前で。映画化を進めている最中に、双葉社に会議に行く日があったんですけど、それがまさに東日本大震災の日で。地震が起こって東京も大混乱になっているのに、双葉社まで行ったんですよ。「よく来れましたね」なんて言われて。で、普通に会議はできたんですけど、帰れなくなったということがありましたね。

こうの　震災の時、私は東京にいましたけど、流言飛語は慎むべきと言われたり、物資の買占めのようなことが起こったりと、戦時中に近いような出来事がありましたね。

片渕　僕も食べ物を買いに行く時に、ここだったら売っているかなとお店を探しましたが、すずさんが砂糖を買いに行く時と同じ感じでしたね。あとは紙おむつを買って被災地に送ったりもしてたのですが、戦時中も似たようなことはされていたんですよね。そう考えると、我々は震災を経験してしまったことによって、戦災についても理解できるようになってしまったんじゃないかなと思います。自然災害と戦争は違いますが、限られた状況下での振る舞いというものに想像力が働いてしまうようになっている。

こうの　確かにそうですね。対処の仕方というのは意外と変わらなかったりしますし。

片渕　戦災で街が大火災になった時に、誰が火を消しているかっていうと消防車なんですね。なかなかそれは描きようがないんですけど、『この世界の片隅に』では空襲のシーンではサイレンの音をできるだけたくさん入れるようにしたり、一か所、原作にはないんですけど消防車を出したりもしています。震災の時も、消防団がすごく活躍したりしていましたが、それによって理解が深まっていることもあると思います。

志摩　話は尽きないのですが、予定の時間をだいぶオーバーしてしまいましたので、最後にお二人からメッセージをお願いできますでしょうか。

片渕　はい。11月12日に公開されて、いまだにこんなに多くの映画館で上映されていて、びっくりしています。いま270館くらいになっていて、普通のロードショー並みの館数にまでなって有難い限りです。最初63館でスタートしたんですけど、今日（※2月4日）73館増えていまして、今日増えた数だけでも最初より多いという（笑）。上映館が増えたことで、みなさんになるべく座って観ていただけるようになればと思います。家でDVDで映画を観ることも多くなっていますけど、映画館で映画を観ることの素晴らしさを、この映画を通じてもっと広がって行くと良いなと思っています。ぜひ今後も、いろいろな映画館でご覧になっていただければうれしいです。

こうの　漫画は一人で読む物ですけど、映画はたくさんの人と一緒に観て感動を共有することができます。映画館に来れば、知らない人ともそれができ、とても楽しい経験ができます。監督のおっしゃるように、また映画館に足を運んでいただき、その都度新しい発見をしてお互いに言い合い、この作品を楽しんで頂ければと思います。

志摩　お二人とも今日は本当にありがとうございました。

（了）

初めてヤミ市に行き、砂糖を探すすず

昭和20年６月の空襲

全国63館から始まった映画『この世界の片隅に』は上映館が延べ300館以上、動員185万人、興行収入24億円を突破し、応援して下さるみなさんのおかげで日本中に届きました。

そして、各映画祭でも高評価をいただき、日本アカデミー賞では最優秀アニメーション賞を受賞。原作者のこうの史代先生からは、「最初、最優秀アニメーション賞に選ばれたと聞いた時は、何かの間違いだろうと半信半疑でした。それが本当だと知ってびっくりしました。片渕監督、おめでとうございます！」とのメッセージをいただきました。

今後は海外23ヵ国・地域での公開が決まっており、日本を超えて世界各地へと広まって行きます。国内でもまだまだロングラン上映中です‼

［ 広島国際映画祭2016 ］
- ヒロシマ平和映画賞

［ 第38回ヨコハマ映画祭 ］
- 2016 日本映画ベストテン第1位
- 作品賞、審査員特別賞（のん）

［ 第90回キネマ旬報ベスト・テン ］
- 日本映画ベスト・テン第1位
- 日本映画監督賞

［ 第59回ブルーリボン賞 ］
- 監督賞

［ 第71回毎日映画コンクール ］
- 日本映画優秀賞
- アニメーション部門 大藤信郎賞
- 優秀音楽賞（コトリンゴ）

［ 第26回東京スポーツ映画大賞 ］
- 作品賞

［ 第40回日本アカデミー賞 ］
- 最優秀アニメーション賞
- 優秀音楽賞（コトリンゴ）

［ 第31回高崎映画祭 ］
- ホリゾント賞（片渕須直、のん）

［ 芸術選奨 ］
- 文部科学大臣賞(片渕須直)

『この世界の片隅に』特集は次号も続きます！